

証券コード：2354

株式会社 YE DIGITAL

2025年2月期 第2四半期決算説明会

(2024年3月1日～2024年8月31日)

2024.10.11



YE DIGITAL

目次

■	2025年2月期 第2四半期 連結決算概要	2
■	株主還元	8
	2022 - 2024年度	
■	中期経営計画 2024年度上期遂行状況	10
■	トピックス	20
■	参考資料	24

2025年2月期
第2四半期 連結決算概要



 YE DIGITAL

2025年2月期第2四半期(累計) 連結業績ハイライト

- 旺盛なDX需要に伴い、ビジネスDXや物流DXが増加し、4期連続で**増収**
- 人的資本や拠点統合などの事業資本への投資が増加するも、売上の増加により**利益増加**
- 売上高・利益面のいずれも**過去最高を更新**

売上高

過去
最高

10,081 百万円 (+3.4%)

ERPソリューション、物流DX事業が牽引

4期連続増収



営業利益

過去
最高

797 百万円 (+11.4%)

事業資本への投資が増加するも売上増により増益

2期連続増益



営業利益率

7.9 % (+0.6 pt)

営業利益率も改善

2期連続



※()内の数値は前年同期比

2025年2月期第2四半期(累計) 連結業績

単位：百万円
(百万円未満切捨て)

	2023年度 第2四半期実績	2024年度 第2四半期実績	増減額	増減率	2024年度 通期 業績予想	進捗率
売上高	9,749	★ 10,081	+ 331	+ 3.4%	20,300	49.7%
うち ビジネスソリューション	7,502	7,933	+ 430	+ 5.7%	15,300	51.8%
うち IoTソリューション	2,247	2,148	△99	△4.4%	5,000	43.0%
営業利益	715	★ 797	+ 81	+ 11.4%	1,800	44.3%
経常利益	767	★ 856	+ 88	+ 11.5%	1,850	46.3%
親会社株主に帰属する 四半期・当期純利益	473	★ 559	+ 86	+ 18.2%	1,200	46.6%
1株当たり 四半期・当期純利 [円]	26.11	★ 30.69	+ 4.58	+ 17.5%	66.01	—

※サービスビジネスの売上は、ビジネスソリューションとIoTソリューションに含まれています。
 ※通期業績予想は、2024年8月20日に上方修正いたしました。
 ※★は過去最高

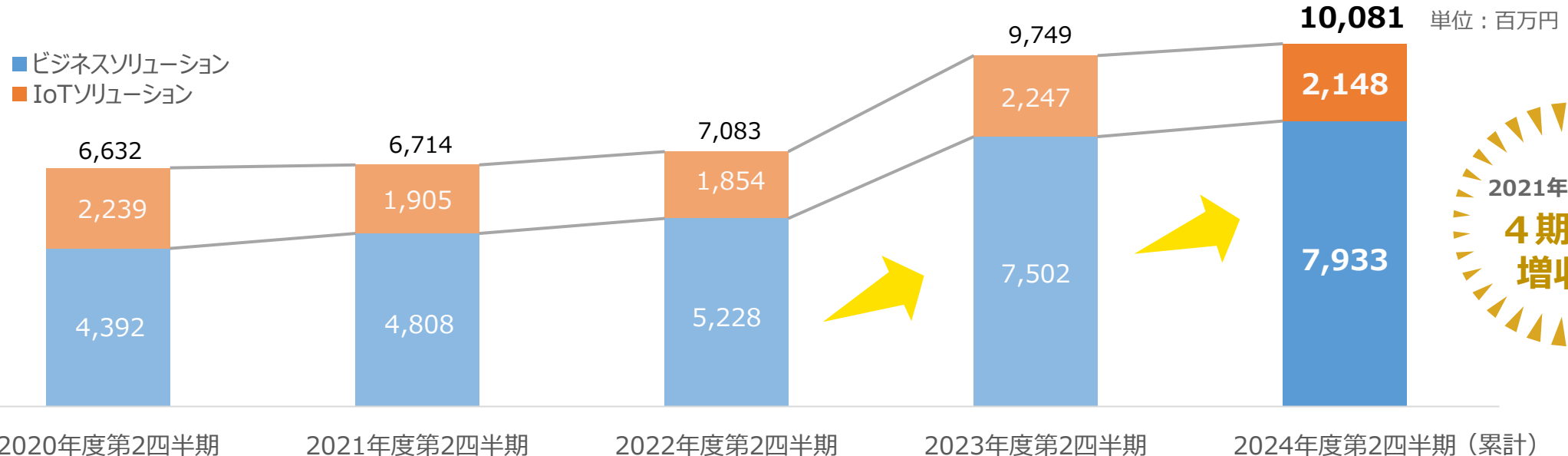
2025年2月期第2四半期(連結累計) 事業別の概要

ビジネスソリューション

- **売上高は79億33百万円 (対前年同期比5.7%増) 4期連続増収**
- ERPソリューションは、当社プライムでのビジネスDX推進・構築の継続的な取組みにより前年同期に比べ約2億円増加
- 健康保険者向けシステム構築は、大型案件が一巡し前年同期に比べ減少

IoTソリューション

- **売上高は21億48百万円 (同4.4%減)**
- 物流DX事業は、需要旺盛な物流業界へのソリューション拡販等により好調継続し前年同期に比べ約3億円増加
- スマートシティ向けソリューションは、前年同期から堅調に推移
- インターネット・セキュリティ関連製品、畜産DX事業は、前年同期に比べ減少



営業利益増減要因分析（前年同期比）

(百万円)
1200

1000

800

600

400

200

0

2023年度
第2四半期（中間期）
営業利益

2024年度
第2四半期（中間期）
営業利益

+235
ビジネス
ソリューション
売上増による
利益増

△54
IoT
ソリューション
売上減による
利益減

+143
採算性向上
〔内製化拡大、
生産性向上〕

△251
人的投資
設備投資
拡大等
〔・賃上げ、要員増
・渋谷オフィス開設等〕

+8
その他

715

797

2025年2月期 通期 連結業績見通し

- ビジネスDXの売上増や経費圧縮により期初予想を上回る見通しになり8月20日に上方修正
- 大規模プロジェクトが一段落するビジネスDXでの新規案件獲得と投資意欲が旺盛な物流DXでの拡販加速で事業拡大に取り組み、**過去最高収益更新**を目指す
- 年間配当は20円、前年度比+ 8 円の**2期連続増配**

	2024年2月期 実績	2025年2月期					
		予想	前年度実績比		3月29日 期初予想	期初予想比	
			増減額	増減率		増減額	増減率
売上高	19,504	20,300	+ 795	+ 4.1%	20,000	+ 300	+ 1.5%
営業利益	1,488	1,800	+ 311	+ 20.9%	1,600	+ 200	+ 12.5%
経常利益	1,559	1,850	+ 290	+ 18.6%	1,650	+ 200	+ 12.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,092	1,200	+ 107	+ 9.9%	1,050	+ 150	+ 14.3%
1株当たり当期純利益 [円]	60.22	66.01	+ 5.79	+ 9.6%	57.90	+ 8.11	+ 14.0%
年間配当金 (うち中間配当金)	12円 (5円)	20円 (10円)	+ 8円 (+5円)	+ 66.7% (+100.0%)	16円 (8円)	+ 4円 (+2円)	+ 25.0% (+25.0%)

単位：百万円
(百万円未満切捨て)

株主還元



 YE DIGITAL

株主還元

配当方針

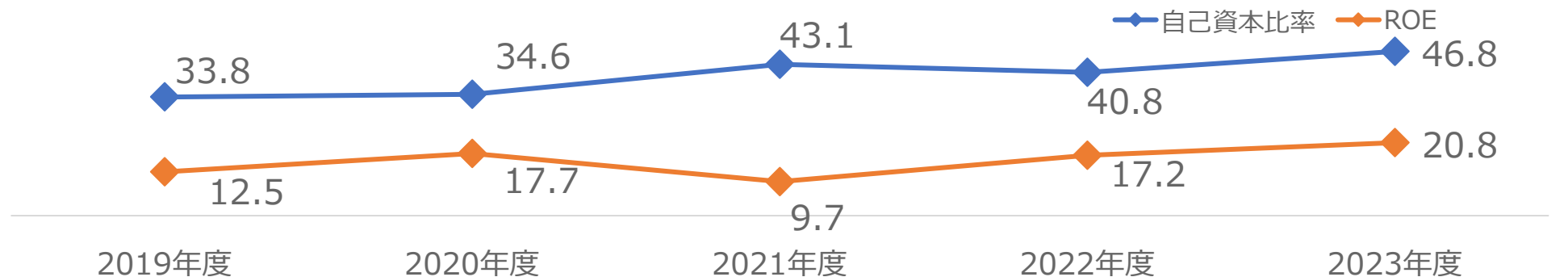
株主の皆さまに対する利益還元を経営の重要課題のひとつとして認識し、今後の事業拡大に向けた内部資金を確保しつつ、長期に渡る安定的な配当を実施

配当予想

2025年2月期 年間配当予想額：20円（中間：10円、期末：10円） **8円増配**
 2025年2月期 配当性向：**30.3%** 期初予想から4円増配

	第2四半期	期末	年間	配当性向
2024年2月期	5円	7円	12円	19.9%
2025年2月期(期初予想)	8円	8円	16円	27.6%
2025年2月期(予想)	10円	10円	20円	30.3%

ROEと自己資本比率の推移



2022-2024年度
中期経営計画
～ 2024年度上期遂行状況 ～



 YE DIGITAL

2022-2024中期経営計画の基本方針

お客様に選ばれる「No.1企業」へ

変革と挑戦により、お客様に感動を与える画期的なソリューションを提供し、「お客様に選ばれるNo.1企業」を実現する

方針 1. 世界水準のビジネスDX推進力による顧客ニーズの獲得拡大

方針 2. 社会をリードするAI・IoT製品による事業規模・領域の拡大

方針 3. 顧客に感動を与えるサービス提供によるストック率の拡大

方針 4. 社員と会社の挑戦と成長によるサステナビリティ経営の実現

2022-2024年度 中期経営計画 2024年度の取り組み

2024年度

22-24中期経営計画『お客様に選ばれる「No.1企業」へ』の最終年度
25-27次期中期経営計画のスタートダッシュに向けた助走

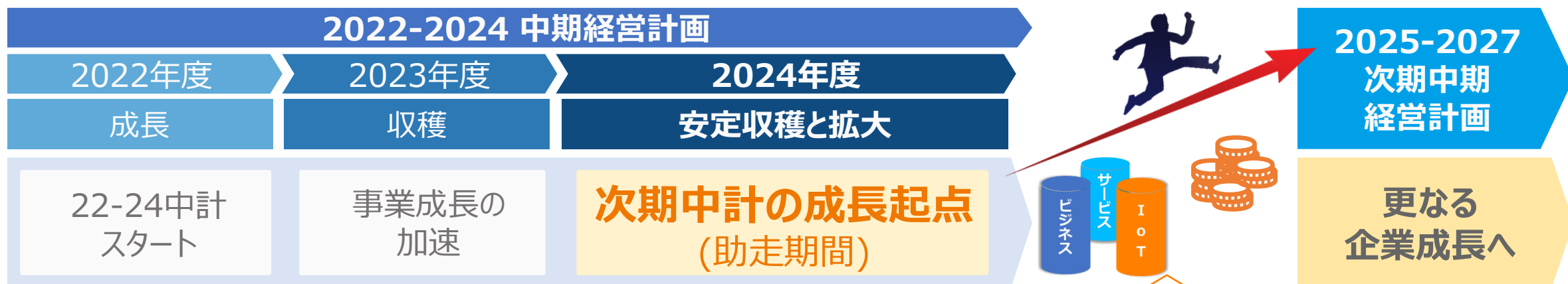
事業構造の

シフトチェンジ



と 事業資本への

投資



販技連携の強化： 6月に渋谷オフィス開設
IoT事業の強化： 9/1付で組織再編、体制強化

2022-2024年度 中期経営計画 2024年度の取り組み

2024年度
下期

次期中計でのIoTソリューション事業、サービスビジネス事業の
飛躍的拡大・強化に向け、スタートダッシュを図るため**半年前倒し**で組織を再編



物流DXシステム本部

重点事業領域に定める
物流DX事業の更なる拡大！



サービスビジネス本部

新たなサービス創出と
カスタマーディライトの実現！

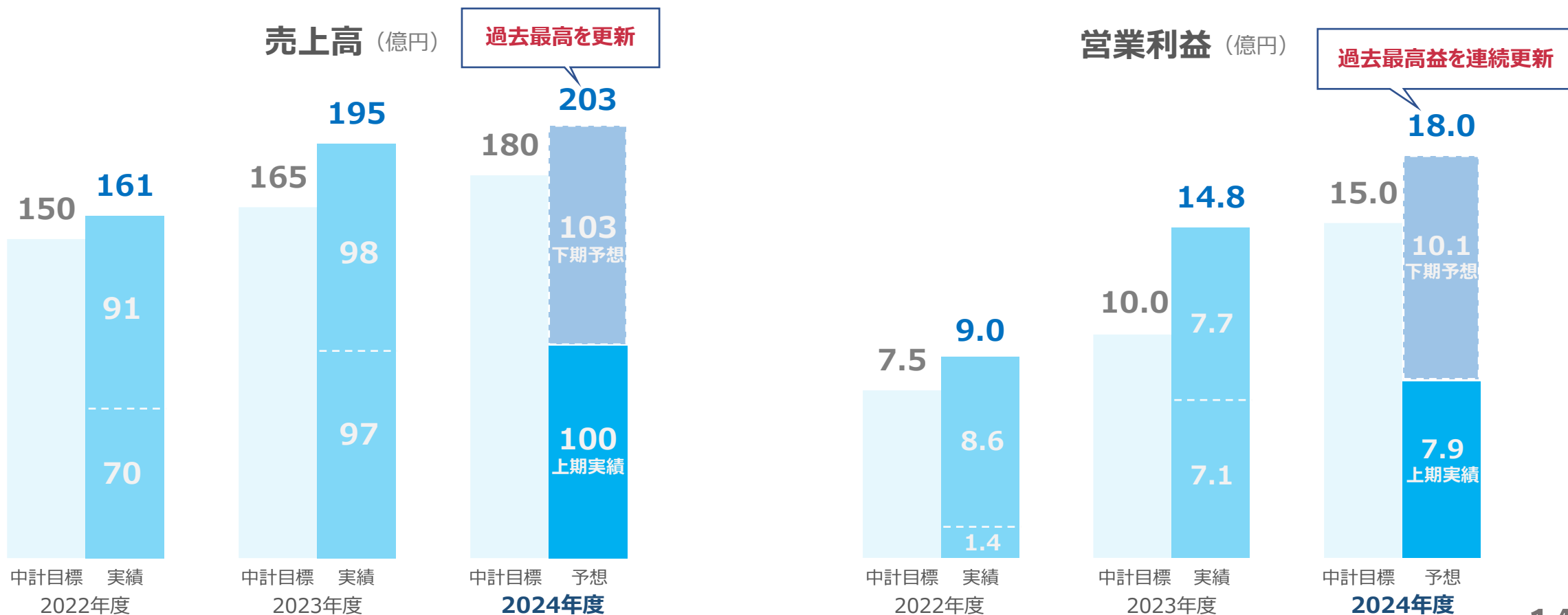


マーケティング本部

営業部門・技術部門と連携した
新規ビジネス創出を加速！

2022-2024年度 中期経営計画の遂行状況

- 売上高・営業利益とも中計目標を大きく上回る進捗
- 営業利益は2023年度に最高益を更新
- ビジネスDX、物流DX好調継続により、売上高・営業利益とも過去最高の更新へ！



2022-2024年度 中期経営計画 2024年度上期遂行状況

方針 1. 世界水準のビジネスDX推進力による顧客ニーズの獲得拡大

- 安川電機様DXプロジェクト(YDX)：完遂に向け **体制強化し** プロジェクト遂行中
- 健康保険者向けシステムの大型案件：**2Qで計画どおり完遂**
- ビジネスDX事業の拡大に向けてパートナーと **協業推進**

方針 2. 社会をリードするAI・IoT製品による事業規模・領域の拡大

- 物流DXは、豊田自動織機様と**業務提携**(2024年5月) 新サービス「Analyst-DWC*¹」の販売開始(2024年5月)
- 畜産DXは、新サービス「Milfeeオーダー*²」「Milfeeデリバリー*³」販売開始(2024年3月)
- 文教DXは、「NetSHAKER W-NAC*⁴」の機能強化、販売開始(2024年7月)

方針 3. 顧客に感動を与えるサービス提供によるストック率の拡大

- **生成AI適用で安定した**ヘルプデスクサービスを提供
- 物流DXサービスセンターでAnalyst-DWCなどの**運用開始**

方針 4. 社員と会社の挑戦と成長によるサステナビリティ経営の実現

- **生成AI「AI-ChatBuddy」**を全社展開し**業務のDX化加速**
- サステナビリティ方針決定とマテリアリティに対する方策検討

*1：倉庫業務の意思決定支援ダッシュボード
*2：飼料発注業務効率化サービス
*3：飼料流通合理化支援サービス
*4：学校ネットワークアクセス管理装置

2022-2024年度 中期経営計画 2024年度上期遂行状況

方針1. 世界水準のビジネスDX推進力による顧客ニーズの獲得拡大

2024年度の
取り組み

大規模プロジェクト完遂とERP領域の拡大およびデータ活用ビジネスの展開

遂行状況

大規模プロジェクト
完遂

- ・ 安川電機様DXプロジェクト：**推進体制の強化** 完遂に向けたプロジェクト遂行
- ・ 健康保険者向けシステム：**計画どおりに完遂** 顧客へ改善テーマ提案の実施

ERP領域の拡大

- ・ 富士通様・ABeam様との**協業推進**と**ビジネス拡大施策**の検討
- ・ **新たなビジネスモデル**による受注獲得

データ活用ビジネス
の展開

- ・ 協業パートナーと介護分野に向けた**データ活用ビジネスプラン**検討

次期中計に向けた
成長ポイント

**既存顧客深耕開拓と新規顧客獲得により
大型プロジェクト一巡後も成長軌道確保**



2022-2024年度 中期経営計画 2024年度上期遂行状況

方針2. 社会をリードするAI・IoT製品による事業規模・領域の拡大

2024年度の
取り組み

物流2024年問題の商機を捉えた拡販加速と導入拡大によるストック収入の確保

遂行状況

物流DX

- ・ **新規大型案件の獲得**、成長継続(対前年同期比 売上高**60%増**)
- ・ 物流業界の更なるDX化を目指し**豊田自動織機様と業務提携**
- ・ **拡販に向けた**システム・開発パートナー連携の強化
- ・ 新サービス「Analyst-DWC」販売開始

畜産DX

- ・ 新サービス「Milfeeオーダー」・「Milfeeデリバリー」市場投入により**販売加速**

スマートシティ

- ・ 自治体向け(駅前整備予算)営業活動の強化で**受注拡大**

文教DX

- ・ キャッシュ機能を強化した「NetSHAKER W-NAC」販売開始と**NEXT GIGAに向けた**戦略立案・体制強化

次期中計に向けた
成長ポイント

ビジネスチャンスを活かし商談・受注のスピードアップ
需要旺盛な物流DXは飛躍的成長に向けた取り組み強化・加速



2022-2024年度 中期経営計画 2024年度上期遂行状況

方針3. 顧客に感動を与えるサービス提供によるストック率の拡大

2024年度の
取り組み

AQUA発信のサービスビジネス拡大によるストック率拡大と
物流DXサービスセンターを最大限に活用したサービス化促進

遂行状況

物流DXサービス
センターの活用

- ・ 豊田自動織機様との**サービスモデルを構築中**
- ・ 物流DXサービスセンター**引き合い旺盛** **物流向けサポートデスク** サービス提供
- ・ Analyst-DWC サービス**運用開始**

AQUA発信の
サービスビジネス拡大

- ・ **生成AIを活用したヘルプデスクサービス** 安定稼働

次期中計に向けた
成長ポイント

**ストック率 2ケタ成長を牽引するサービスモデルの
早期確立とユーザー数拡大**



2022-2024年度 中期経営計画 2024年度上期遂行状況

方針4. 社員と会社の挑戦と成長によるサステナビリティ経営の実現

2024年度の
取り組み

事業の安定と拡大を支える社内DX推進とサステナビリティ経営の実現に向けた変革

遂行状況

社内DX推進

- ・ **生成AI「AI-ChatBuddy」**業務利用の全社展開でDX推進
- ・ 新人事システム稼働開始

サステナビリティ経営 の推進

- ・ サステナビリティのマテリアリティに対する**具体的方策**検討
- ・ 若手社員の育成や従業員エンゲージメント向上施策の継続実施

次期中計に向けた 成長ポイント

**サステナビリティ経営を支える戦略的マネジメント強化と
データドリブン経営の推進**



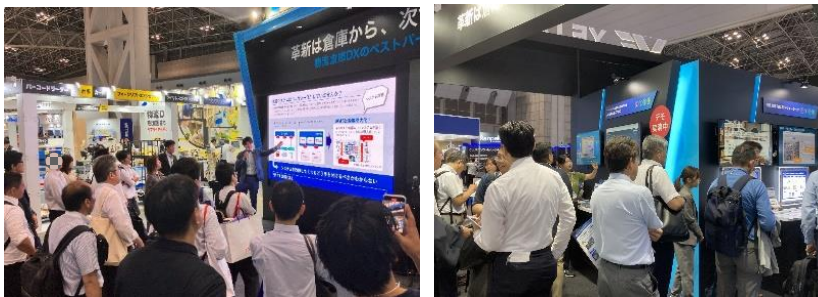
トピックス



 YE DIGITAL

TOPICS!

物流センターのDX化と効率化を実現する革新的ソリューションを紹介 国際物流総合展に出展



第16回 国際物流総合展「Logis-Tech Tokyo 2024」
(2024年9月10日(火)～13日(金) 東京ビッグサイト)
総来場者84,193名 出展社数580社(過去最多規模)

当社のテーマ 「革新は倉庫から、次世代の物流へ」

物流センターのDX化、倉庫運営の効率化・生産性向上を支援する製品で
認知度向上！



過去最多のブース来場者



MMLogiStation、*Analyst-DWC*、
物流倉庫向けAIサービスに関心多数

多くの接点、
商談機会
獲得

本展示会で獲得した接点・機会を確実に捉え

顧客獲得・物流DX事業の拡大加速！

“ソフトウェア開発に特化”した生成AI 販売開始！

当社グループで大幅な開発効率アップを実現した、生成AI導入支援サービス「AI-ChatBuddy」を9月から販売開始。

企業ごとのニーズに合わせたAI環境の提供で高度なサポートを実現
生成AI活用を後押し！

効率
アップ
実績

開発工数

35% 削減

英文ドキュメントの読解と
コード生成工数

80% 削減

開発工数の全プロセス適用で

品質向上

※当社グループの利用で確認された効果

特徴

- 高速かつ高精度な最新の生成AIモデルGPT-4oに対応
- 高度なセキュリティでデータを保護
- AI-OCR搭載で入力図表も高精度に読み取り
- RAG(検索拡張生成)採用でナレッジに基づく正確な回答を実現
- ソフトウェア開発に役立つプロンプト(指示・質問)集を搭載

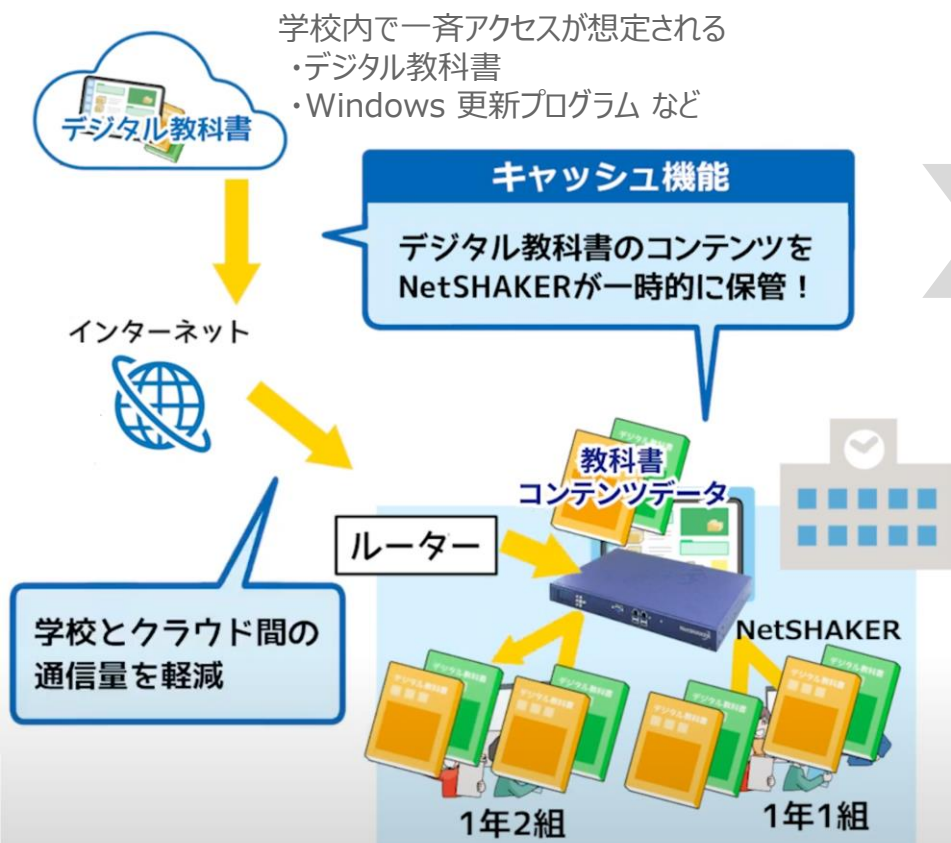


TOPICS!

“GIGAスクール構想”を支える学校ネットワークアクセス管理装置

「NetSHAKER W-NAC」 デジタル教科書対応強化

デジタル教科書の本格導入開始に向け、ネットワーク遅延による授業中断等を防ぐため、動画を含むデジタルコンテンツを一時的にサーバ内に保管する**キャッシュ機能**を強化！ 7月に発売。



通信負荷の大幅軽減！
安定した通信環境の実現！

「NEXT GIGA」導入に向け
学校ネットワーク環境強化を支援

各社無線アクセスポイント最新機種と連携。
一括設定機能で古い設備からのリプレースを支援。
(バッファロー様ほか and more...)

參考資料



 YE DIGITAL

会社概要

商号	株式会社YE DIGITAL YE DIGITAL Corporation
設立	1978年2月1日
本社所在地	福岡県北九州市小倉北区米町2-1-21 APエルテージ米町ビル
代表者	代表取締役会長 遠藤 直人 代表取締役社長 玉井 裕治
資本金	7億47百万円
事業内容	情報システムの構築・運営、情報処理ソフトウェアの開発・ 販売等の情報処理サービスの提供
従業員数	単独：543名 連結：701名（2024年8月31日時点）
決算日	2月末日
上場市場	東証スタンダード市場
連結子会社	株式会社YE DIGITAL Kyushu（福岡県北九州市）

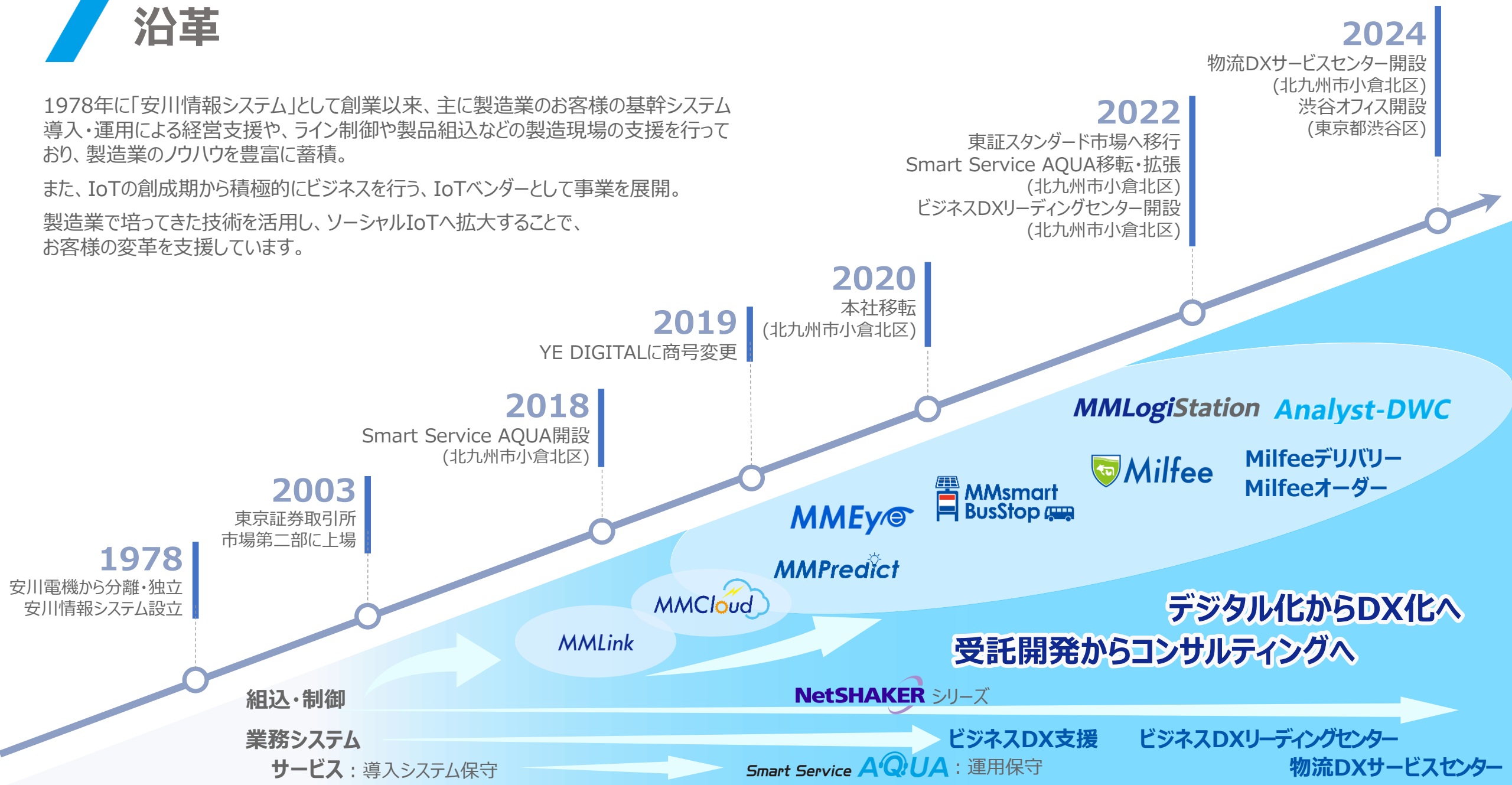


沿革

1978年に「安川情報システム」として創業以来、主に製造業のお客様の基幹システム導入・運用による経営支援や、ライン制御や製品組込などの製造現場の支援を行っており、製造業のノウハウを豊富に蓄積。

また、IoTの創成期から積極的にビジネスを行う、IoTベンダーとして事業を展開。

製造業で培ってきた技術を活用し、ソーシャルIoTへ拡大することで、お客様の変革を支援しています。



ソリューション提供モデルと経営環境

ソリューション提供モデル

経営環境

顧客・ユーザー

① **ビジネスソリューション**

- ビジネスDX
(ERPソリューションなど)
- 顧客向けシステム開発
- ⋮

② **IoTソリューション**

- 物流DX
- 畜産DX
- スマートシティ
- ⋮

③ **サービスビジネス**

- Smart Service AQUA

- ・サステナビリティ経営の重要性
- ・人的資本経営の重視(人材育成、多様な人材の活用、インゲージメント等)
- ・社内DX、業務改革の推進・強化 など

① ビジネスソリューション

- ・「2025年の崖」の直面と克服、ITシステムの老朽化/IT人材不足
- ・国内のDXの取り組みの遅れ、未着手企業が多数

② IoTソリューション

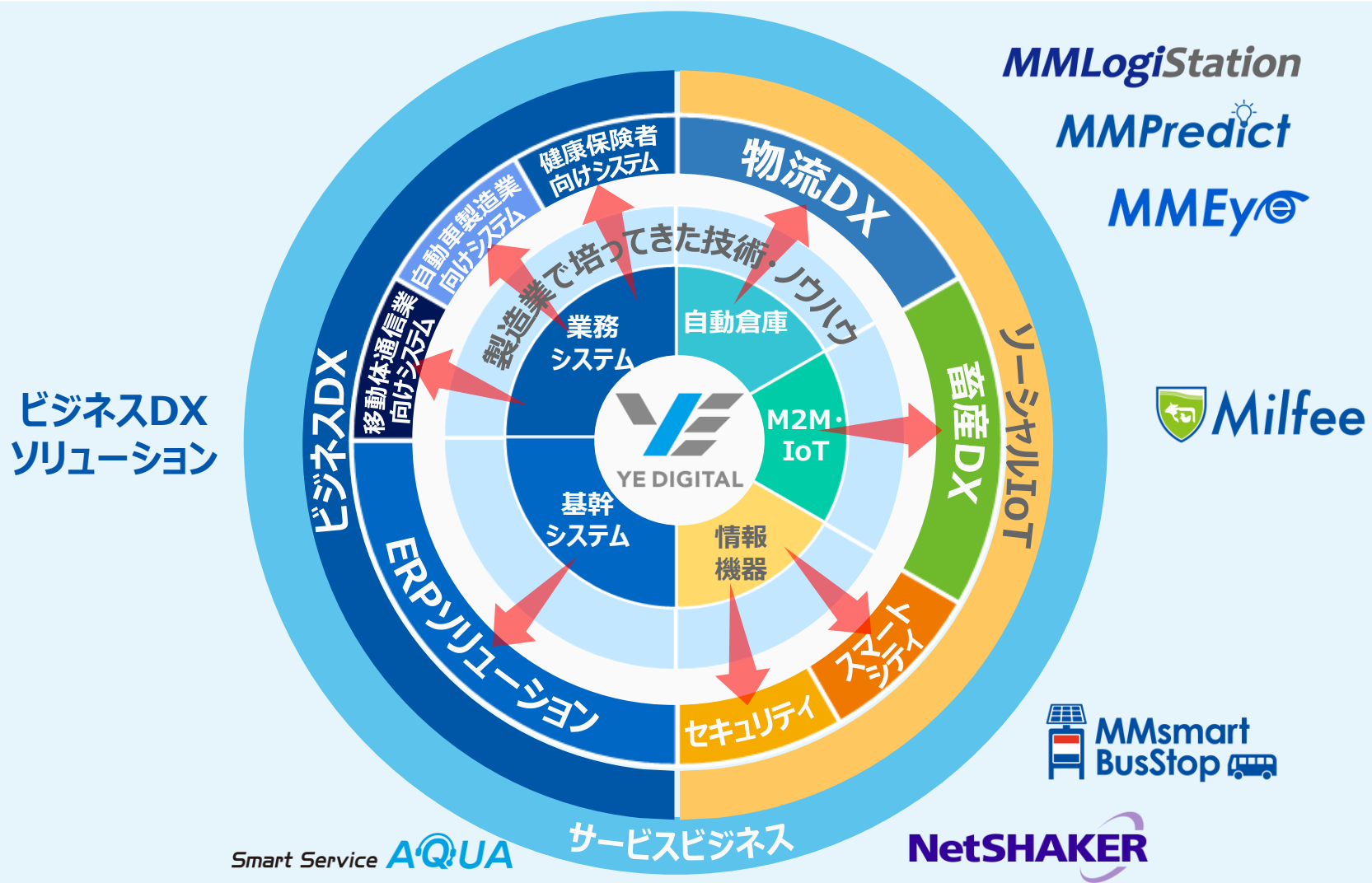
- ・人手不足/従事者の高齢化(畜産業界、物流業界など)
- ・環境問題や食品ロス問題等の対応(地球温暖化、畜産環境問題、食品ロス・廃棄ロスなど)

③ サービスビジネス

- ・クラウド需要の拡大と成長
- ・消費行動の変化と多様性の進化
- ・ビジネスモデルの創出と進化
サブスク、シェアリングエコノミーなど

YE DIGITALの強み

時代とともに変化し続ける社会のニーズ・シーズに対応し、製造業での長年の経験から蓄積された技術とノウハウを駆使して、ITで最適な課題解決ソリューションをご提供します。



YE DIGITALのマテリアリティ

当社グループは、サステナビリティに関するリスク・機会のうち、特に当社グループにとって重要なものをマテリアリティとして特定し、経営や事業戦略に組み込んでいきます。

【当社の考えるマテリアリティ】

事業活動を通じて提供する社会価値の創造

- 当社のソリューションに対するお客様満足度の向上
- 当社のプロダクト・サービスによる社会課題の解決
- 当社のプロダクト・サービスの品質・安全性の確保

事業活動を支える価値創造基盤の強化

- 人材・働きがいの成長・向上
- 社会価値を創出するイノベーションとソリューション
- 個人情報保護と情報セキュリティ確保

企業活動を支える経営基盤の強化

- コーポレートガバナンス体制の整備と運用の強化
- リスクマネジメントの体制の整備と運用の強化
- ステークホルダーとの対話



本資料について

本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載されています。

これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。

従いまして、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おきください。

【お問い合わせ先】

 **YE DIGITAL**

管理本部 企画部 I R 担当

URL:<https://www.ye-digital.com/ir/>

 デジタルで、
暮らしに明るい変革を。

